

# 海外異文化体験「中国式トイレ習慣」

元上海在住 川上直子  
Naoko Kawakami

## どうしても受け入れられない習慣

外務省の『海外在留邦人数調査統計(2016年版)』によると、現在中国に進出している日系企業の数には3万3000拠点で、全中国に在住する日本人数は13万1000人、その内約半数弱の6万人が上海市とその近郊で生活している。上海には2000店舗を超える日本食料店があるとされ、日本式サービスを手軽に楽しむことができるが、現地ならではの中国式生活習慣に触れてみるのも一興だ。

例えば地元の小さな中華料理店を訪れると、おしぼりは有料で水は提供されない。運良く提供されたとしても生ぬるく、がっかりする。冷たい水の無料サービスに慣れている日本人としては不服だが、中国人の友人は、「これから温かい料理を食べるのに、冷たい水を飲んだら胃腸に悪からう」と、日本のサービスの方を批判するから面白い。

料理を注文したい時には、日本では「すみません!」と店員に声を掛けるが、ここでは「服务员(サービス係さん!)」と呼び掛ける。他のテーブルの客とサービスを受ける順番を競い「美女(お美しいあなた!)」と呼び掛けて、女性店員のご機嫌を取ることもしばしばだ。ここ中国では、より良いサービスを受けるためには、客には待ちの姿勢ではなく積極性が要求されるのだ。

中国に住み始めてから「郷に入れば郷に従え」の精神にのっとり、たいいていの習慣の違いは受け入れてきた。しかしどうにも受け入れられな

いものが1つある。それが中国式トイレ習慣だ。ある日ショッピングセンターでトイレの個室に入ろうと扉を開けると、中に先客がいた。鍵が開いていたのになぜ? とこちらは慌てふためくが、相手はなぜか涼しい顔をしている。まさか閉め忘れではなく確信犯なのか? またある日、レストランでトイレに入ろうとすると個室の鍵が壊れていた。半年後に再訪すると、まだ壊れたままではないか。修理の優先度が低いのは分かったが、不便に感じないのか? とにかく謎が多い。

そこで今回は、この不思議な中国のトイレ習慣をテーマに論じてみたい。

## トイレへの価値観の違い

先日1つのローカルニュースの見出しが目をついた。「乗客がバスの中で大便、黙々と後始末する運転手に他の乗客らが称賛!」。場所は福建省福州市、あるバスの車内での出来事。走行中に客席の後方部から異臭が漂ってきたため、運転手は一旦全乗客を降ろし、すぐさまモップで清掃を開始した。20分後には再度乗客を乗せ、何事もなかったかのように運転を再開した、という内容だ。バスに乗り合わせた乗客がネット上に投稿して話題となった。翌日記者から取材を受けた運転手は、「人は誰にだって、これ以上(トイレが)我慢できない緊急時というものがあるじゃないか? 恐らく(犯人は)腹の調子が悪かったが、気まずくて言い出せなかったのだろう」と答えた。